第 17 回日本抗加齢医学会総会
ランチョンセミナー 17

腟・外陰部および下部尿路系退行性変化に対する レーザー治療による Anti-aging 効果

日時：2017 年 6月 4 日（日） 12：20～13：10

会場： 東京国際フォーラム 第 7 会場（G409）

座長：**太田 博明** 先生
（日本抗加齢医学会理事 / 国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授 / 山王メディカルセンター女性医療センター長）

演題 加齢に伴う腟・外陰部および下部尿路系における退行性変化による QOL の低下

演者 **太田 博明** 先生
（日本抗加齢医学会理事 / 国際医療福祉大学臨床医学研究センター 教授 / 山王メディカルセンター女性医療センター長）

慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学伊勢慶應病院産婦人科部長、米国ラ・ホーヤ癌研究所留学後、慶應義塾大学産婦人科講師・助教授、東京女子医科大学産婦人科主任教授を経て、現職。日本産科婦人科学会名誉会員、日本女性医学学会前監事、日本骨粗鬆学会前理事長など数多くの重職を務め、女性医療の分野において第一人者として日本をリードしており、女性のウェルエイジングのための予防医療の重要性を積極的に提唱している。

演題 産婦人科クリニックにおける腟・外陰レーザー治療（モナリザタッチ®）の試み

演者 **八田 真理子** 先生（聖順会ジュノ・ヴェスタクリニック八田 院長）

聖マリアンナ医科大学卒業。産婦人科専門医。順天堂大学、千葉大学にて研修の後、松戸市立病院産婦人科勤務を経て 1998 年、聖順会ジュノ・ヴェスタクリニック八田を開院。地域に密着したクリニックとして思春期から更年期まで幅広い世代の女性の診療・カウンセリングにあたり、正しい知識の啓蒙活動にも積極的に取り組んでいる。

共催：第 17 回日本抗加齢医学会総会

DEKA The Code of Excellence
株式会社 DEKA JAPAN
〒107-0062 東京都港区南青山 2-21-37　TEL：03-5785-2133
url：www.dekajapan.jp

加齢に伴う腟・外陰部および下部尿路系における退行性変化による QOL の低下

太田 博明 先生

（日本抗加齢医学会理事 / 国際医療福祉大学臨床医学研究センター 教授 / 山王メディカルセンター女性医療センター長）

身体の構成細胞は新陳代謝によって入れ替わるが、そのスピードは加齢により低下する。そのため、古い細胞の老廃物などが体内に残留し、その影響が身体の変化となるが、見た目の年齢が人それぞれ違うように個人差がある。

この個人差は遺伝的要因が約 20%、環境的要因が約 80% といわれ、健康的な生活習慣によって新陳代謝も促進される。細胞が正常なサイクルで生まれ変わるためには、細胞に必要な栄養素が全身に行き渡り、老廃物などが速やかに回収される必要がある。その働きを担うのが血流と抗酸化力であるが、この血流と抗酸化力は 55 歳を境に急激な低下を来たし、75 歳ともなると僅かな残存しかないとの報告がある。

下部尿路系症状である頻尿・切迫性尿失禁を来す過活動膀胱は、50 歳以上の女性の 8 人に 1 人に症状が認められるという。しかも治療意向は高いが、泌尿器科の敷居が高く、受診に至りにくい。同じように腟・外陰部の違和感や不具合に対しても年のせいとあきらめ、QOL の低下を来している。しかも、これらに対する全身や局所の性ホルモン療法には限界がある。これらの症状は、従来は外陰腟萎縮（vulvovaginal atrophy :VVA）として扱われていたが、下部尿路にも関わる問題であることから、2013 年に国際女性性機能学会や北米閉経学会、国際閉経学会にて VVA に代わって、閉経後性器尿路症候群（Genitourinary syndrome of menopause:GSM）が採用された。この新たな概念に基づき、欧米では腟・外陰部および下部尿路系の Total anti-aging にレーザーによる resurfacing 治療が既に進展している。皮膚のしみ、しわにレーザー治療が行われて久しいが、同様の操作を性器尿路系に施行し、線維芽細胞の活性化とコラーゲン繊維の新生を図り、厚みのある上皮形成と血流改善から抗酸化力の上昇による粘膜組織の代謝能力の亢進が期待できる。

米国の報告では閉経後女性のうち、約半数が GSM に関連する各種症状によって QOL の低下を認めているが、簡便なレーザー治療の施行によって安全かつ効果的に Rejuvenation が認められるという。

産婦人科クリニックにおける腟・外陰レーザー治療（モナリザタッチ ®）の試み

八田 真理子 先生（聖順会ジュノ・ヴェスタクリニック八田 院長）

腟・外陰部に対する炭酸ガスフラクショナルレーザー治療（モナリザタッチ ®）は、2009 年にイタリアで開発が始まり、2015 年には米国 FDA の承認を受けすでに世界約 60 か国で 50 万人以上の女性がその恩恵にあずかっている。この治療は女性ホルモン低下により起こる「腟萎縮」に対し、従来の治療では改善しなかった患者のために開発された経緯を持つ。

更年期以降の女性の多くが経験する閉経後性器尿路症候群（Genitourinary syndrome of menopause、以下 GSM）の不快症状を“加齢による症状だから仕方ない”と市販薬などで対処し、羞恥心から誰にも相談できず、医療機関でも話せず放置している女性としばしば向かい合ってきた。さらに、医療者患者共にホルモン剤に対する嫌悪感や GSM に対する認識の低さから、わが国ではこの GSM に対する治療が適切に行われておらず、いまだ多くの女性が治療に消極的であると感じている。一方で、乳がんなどホルモン依存性疾患を持つ女性が増えている中、GSM の改善策を見いだせず、治療を断念している女性は後を絶たない。

当クリニックでは 2016 年 3 月から腟・外陰レーザー治療を導入し現在まで、外来患者の 180 例以上に施術を行ってきた。全例に腟レーザー治療に加え、外陰レーザー治療によるリジュビネーションを同時に施行した。ほぼ全例で「排尿障害」「かゆみ」「性交痛」が速やかに改善傾向を示し、副作用やトラブルは 1 例もなかった。ホルモン補充療法（HRT）症例では改善がより顕著であり、治療をきっかけに HRT を開始した例もあった。

高齢化社会が進み、女性の平均寿命が世界第一位を維持しているわが国で、すべての女性がいつまでも“元気”で“生き生き”と“楽しい”毎日を送れるようになることが、女性医療に携わる私たち医療者すべての願いであり、使命でもある。世界からは「セックスレス大国日本」と揶揄され久しいが、今後「腟・外陰レーザー治療によるアンチエイジング効果」によって挽回できる日も近いかもしれない。

今回のセミナーでは実際の施術をビデオ供覧し、臨床効果について検討する。